

# 安全に登下校するために〔気象災害編〕

年 組 氏名 [ ]

## 集中豪雨の危険性

令和元年10月25日の昼前から昼すぎにかけて、千葉県では、低気圧の影響により、強い雨雲が発達して何時間も強い雨が降り続けました。県内各地で、水があふれたり、がけが崩れたりして、道路が通れなくなったり、電車が止まったりしました。家に帰ることができなくなってしまった人もたくさんいました。

大雨が降っている時はもちろんのこと、降った後も道路には危険なところがあります。無理に家に帰ろうとはしないで、安全が確かめられてから、家に帰るようにしましょう。また、登校前に大雨が降った時には、安全が確かめられてから登校するようにしましょう。

### 大雨の時に気を付ける場所

- 用水路や川の近く
- マンホール
- まわりよりひくくなっている所
- \*道路に水があふれてきたり、たまったりして、ケン**
- がけの近く **\*くずれるかもしれないのでケン**



### 道路に水があふれていたら

- どんどん水があふれてくるときには、できるだけ、高い所へひなんする。
- 足元が見えないくらい水がたまっている道は、ぜったいに通らない。遠回りでもちがう道を通るか、引き返す。

## 台風

台風の進路は、気象情報等であるといど、よそくができます。天気よほうに注意して、台風がくる前に、ケンにそなえておく。また、台風が来る前に雨風が強くなったり、来たあとも風が強かったりするのので、登下校のときには十分に気を付ける。



- ➡ **雨風が強いとき…かさは、とばされるケンがあるので使わずレインコートをきる。**
- 風が強いとき…とんでくる物、落ちてくる物、倒れてくる物に注意する。**

ほか、気をつけたい

気象災害

### かみなり

真っ黒い雲が近づいてきたり、かみなりの音が聞こえてきたり、急に冷たい風が吹いてきたら**注意！**



➡ **近くの安全な場所にひなんする**

(できれば、たて物の中。なければ、ひくい場所をさがしてしゃがむ。高い木の近くはケンなので、はなれる。)

### たつまき

「ゴー」という音が聞こえてくるとともに、遠くにろうと雲が見えたら**注意！**



➡ **がんじょうなたて物の中にひなんし、まどからはなれる**

(たて物が近くにはない場合には、とんでくる物をさけられるような物かげやくぼみで体をふせて、頭を守る。)

いざというときに、あわてないように、たしかめておこう！

通学路の中であぶない場所は？

いざという時に、ひなんできる場所

# 安全に登下校するために〔地しん編〕<sup>へん</sup>

年 組 氏名 [ ]

登下校中に大きな地しんが発生した時に、きけんな場所はないかな？

## ！ 通学路の安全をチェックしておこう



落ちてきそうなもの



倒れてきそうなもの



道をふさぎそうなもの

(出典：地震調査研究推進本部 <http://www.jishin.go.jp/main/index.html>)

つがくろ 通学路にあるきけんな場所



地しんの時に とるべき行動

大きなゆれがおさまったあとは？

まずは、落ちてきたり、倒れてきたりしない、安全な場所へ移動する



けがをしている人がいないか確認する

**大きなけがをしている**  
大きな声で、まわりに助けをもとめる

**きりきず、すりきず**  
きれいなハンカチで、きず口をふさぐ。  
(水道があればよくあらう)

より安全な場所へひなんする

**自宅か学校のどちらか安全で近い方**

- ・自宅、学校どちらも遠いときには、近くのひなん場所へいく。
- ・津波のきけんがあるときには、津波のひなん場所へ急いでいく。

いざというときに、あわてないために、準備しておこう！

**もっていると、役に立つもの**

- きれいなハンカチ  
(きずの手あて、けむりをふせぐ など)
- ホイッスル(助けをもとめる時にふく)
- 
- 
- 

**いざという時に、安全な場所、ひなんする場所**

- 落ちてこない、倒れてこない安全な場所
- ひなん場所

# 安全に登下校するために〔雪道<sup>へん</sup>編〕

年 組 氏名 [ ]

雪がふった後には、どのようなことに気をつけて、登下校したらよいのか考えよう。

## <すべりやすい場所>

### ○おうだん歩道の白線の上

かわいているように見えても、うすい氷のまができて、すべりやすくなっている場合がある。

### ○車の出入りのある歩道(ちゅう車上の出入り口、ガソリンスタンドなど)

出入りする車のタイヤで路面の氷がみがかれ、すべりやすくなっている場合がある。

### ○バスやタクシー乗り場

ふみかためられて、すべりやすくなっている場合がある。

歩道と車道とのだんさにも注意する。

### ○坂道、かいだんなど

上りよりも下るときの方がすべって転びやすきけんである。

下るときにはとくに注意する。



## <雪道を安全に歩くポイント>

### ○小さな歩はばで歩く

歩はばを小さくし、そろそろと歩く「ペンギン歩き」がきほん。

### ○くつのうら全体を路面につけて歩く

体の重心をやや前におき、できるだけくつのうら全体を路面につける気持ちで歩く。

また、くつ底がすべりにくいものをはく。(ゴム底の長ぐつなど)

### ○その他

- ・ 転んだときのために、ぼうしや手ぶくろなどをつける。  
(両手をポケットに入れて歩くことはきけんなのでやらない。)
- ・ 屋根の上の雪や氷が落ちてくることがあるので、屋根にも目を配り歩く。  
あたたかい日は、特に注意する。
- ・ 道路で雪合戦などはやらない。
- ・ 交差点では車がスリップしやすいので、車からはできるだけはなれる。



自分の通学路の中で、雪の時に気を付ける場所はどこだろう？



## 安全に通学するために ～集中豪雨の危険～

## 集中豪雨の危険性

年 組 氏名 [ ]

令和元年10月23日に東シナ海で発生した低気圧が、24日から26日にかけて、西日本、東日本、北日本の太平洋沿岸に沿って進んだ。この低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込むとともに、日本の東海上を北上した台風21号周辺の湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。このため、東日本から東北地方の太平洋側を中心に広い範囲で大雨となった。

千葉県では、25日昼前から昼過ぎにかけて強い雨雲が発達して猛烈な雨が降り、10月25日00時から25日24時までの総降水量は牛久で285.0mm、大多喜で276.0mm、佐倉で248.0mm、鴨川で246.5mmを観測し、記録的な大雨となった。この雨の影響で、県内では土砂災害、浸水、洪水の危険度が所々で極めて危険な状態(レベル4相当)となった。

## 県内の主な被害状況 (R1.11.13現在)

1. 人的被害 死亡11名、重傷1名、軽傷3名
2. 住家被害 全壊10棟、半壊14棟、一部損壊54棟、  
床上浸水1,379棟、床下浸水1,279棟
3. がけ崩れ 12カ所
4. 鉄道運休 JR 東日本、京成電鉄、新京成電鉄、  
小湊鉄道、いすみ鉄道、北総鉄道、  
銚子電気鉄道、芝山鉄道、京葉臨海鉄  
道
5. 道路被害 通行止め 国道13カ所、県道45カ所、  
市町村道213カ所

## 大雨の時に気をつけること

## ○気をつける場所

[用水路や川の近く、マンホール、まわりより低くなっている所、アンダーパス、崖、斜面など]

## ○道路が冠水していたら

- ・水位が増してくるようであれば、できるだけ高い所へ避難する。
- ・足元が見えないくらい冠水している道は避ける。**(想像以上に浸水している可能性がある)**

## ○雨がやんだ後も…

**雨がやみ、水が引き始めても土地の低い所は浸水が深い所もあるので、注意が必要！！**

## いざというときに、あわてないように、確かめておこう！

通学路の中で  
大雨の時に危険になる場所は？

通学途中のいざという時に、危険を回避するための方法を  
考えておこう。(遠回りでも安全な道や避難できる場所など)

## 自然災害の被害を軽減するためにできる「自助・共助」について考えよう

年 組 氏名 [ ]

## 知る

私たちが生活している地域にはどのような特徴があるのだろうか。

(地理的条件、道路の様子、建物の様子、地域住民の構成、公共施設 など)

## 予測する

私たちが生活している地域にはどのような自然災害の危険があるのだろうか。

(ハザードマップ、過去の災害発生事例などをもとに予測する)

## 備える

自然災害の被害を軽減するためにできる「自助・共助」について考えよう

(事前に準備しておくこと、確認しておくこと、いざというときの行動 など)

学習の振り返り

## 災害時のボランティア活動を考えよう ～避難所でできること～

年 組 氏名 [ ]

## 知る

大規模災害時の避難所運営のために、地域ではどのような備えをしているのか調べよう。(避難所の指定場所、備蓄品、防災訓練、要支援者への配慮事項 など)

## 予測する

過去の災害をもとに、避難所生活で生じる課題を考えよう。  
(季節、要支援者、ライフラインの状態など様々な状況をイメージして考えよう)

## 備える

災害時、避難所で必要とされるボランティア活動について考えよう  
(周りの人たちのために自分たちにできること、やるべきことは何だろうか)

学習の振り返り

